口語詩句６月総評　　龍　秀美　　202306

＜総評＞

この欄も最近はますます多彩な表現が現れており、今月はその中でもユーモアをうまく使った作品に目が行きました。笑いは大きな武器です。そういう思いで選んでみました。

自己陶酔するメタファーに
食べさせてやる天牛

桜望子　山形県
――日本語には時折、中国語がそのまま大いばりで使われている。天牛（カミキリムシ/ティエンニウ）はその例。分からないなぁと首を捻られながら意に介さないメタファーにも通じて面白い。

何枚も重ねたお皿を手に持って
純文学をあきらめている

まちりこ　埼玉県
――回転ずしのようにあれこれ食べて試し、結局残った皿をながめている光景が目に浮かぶ。

おれは悔しくてイ段を軽んずる

松下　誠一　東京都

―母音のなかでもイ段は一番発音しにくく聞き取りにくい。なんだか知らないがムシャクシャするときには、イ段でも馬鹿にしてやろうか。

誘蛾灯どうして僕は生まれたの

小林紅石　埼玉県

―誘蛾灯に誘われた虫は火の中で内臓が破裂して死ぬ。生まれるということと死ぬということの偶然と困難をふと感じる瞬間。

炎天をじんじん登る殉教地

杢いう子　佐賀県

──「炎天」、「じんじん」、「殉教」という音韻の響き合いが歴史の記憶を身体に呼び起こす。

あ、

それは

わたしのトマトわたしのトマト

山本先生　東京都

──繰り返しただけで目の前に新鮮なトマトが浮かんでくる。状況を取り入れた言葉の使い方のテクニック。

梅雨の闇

かすかに呻（うめ）く新生児

田崎森太　東京都

──「梅雨」、「闇」、「呻く」という新生児に似つかわしくない言葉の連なりが、かえって新しい生命の生々しさを浮かび上がらせる。

目の粗い
しあわせの中にいたら
忘れられそう

こはくいろ　大阪府

―細部にこだわらないということは美点のひとつかも知れない。その美点はこの複雑で奇妙な人生を生き易くしてくれるだろう。「目の粗い/しあわせ」は発見のひとつ。

履歴書の広い余白にうちの犬、

犬でも貼っておきたいけれど

マズルカ　山口県

―自筆履歴だから家族の一員である犬が載ってもいいかも。そういえば自筆年譜には面白いものが多い。

犯す気でいる刑法を読む　じっと

大嶋　碧月　兵庫県

――作中人物はどういう目的で読んでいるのか。「じっと」が末尾に付いているのが怖い。最近の世相も思い起こさせる。

「来世ではぶどうになる」

と

クレヨンはすり減りながら

ドラゴンになる

天野 若花　福岡県

――表現の材料は表現されて変身する。使う者の意志だけではないだろう。材料としての言

葉もこんなところで使われたくないと思うことがあるのかも。SNS の時代の新しい感覚。

怒られている僕を

割れて生まれた窓の断片が映す

山神　慶具　神奈川県

──割れることでいくつもの世界観ができた。その一つに映っている僕。まだまだたくさんあるんだ。

山笑うなよ

花粉が飛ぶだろ

羊夏生　東京都

──俳句の季語を文字通りに使ってユーモラスな効果を出している。「羊夏生」というペンネームにも感性が出ているようだ、

朝一番に教室へ

部屋いっぱいに大きな薬指

羊夏生　東京都

──「朝」、「教室」、「部屋」という順当さの次に突然出てくる「薬指」。名無し指と言われる薬指は目に見えない何かなのかも知れない。